

今月の安全運転管理

あの道 この道 なれた道 安全確認 もう一度

①マイカー通勤者の安全指導を行おう

- 交通安全教育の実施と通勤マップの作成
- 運転適性検査を活用し、個別指導をすすめる

②自転車事故最多月、事故防止対策を構築しよう

- 生活道路の安全運転指導に注力しよう
- 社内イントラネットを活用して事故事例を周知



マイカー通勤をはじめ 社員に交通安全教育を実施

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、マイカーや社用車での通勤を推奨する企業も増えています。

しかし、新しくマイカー通勤をはじめた社員は運転に不慣れな場合も少なくないため、事前に交通安全教育や同乗指導によって運転スキルを把握するなど、安全運転意識を高めることが必要不可欠です。

また、通勤時の事故防止に効果的な対策として、マイカー通勤危険箇所マップによる指導があります。

これは、マイカー通勤の申請時に、通勤経路上の危険箇所と事故防止運転の方法を記入した通勤マップを作成させるもので、危険箇所を自覚させることにより、防衛運転を促すことができます。

なお、運転者を指導する際には、運転者の性格等に応じて行うことが重要です。そこで、運転適性検査を活用し、運転者に自分の運転を客観的に理解させたうえで、一人ひとりのレベルに応じた個別指導を行います。

生活道路の安全運転指導に 力を入れよう

愛知県警によると、十月は自転車乗用中の死者数、負傷者数が共に年間でもっとも多い月となっています。

また、自転車の死傷事故は幅員五・五m未満の生活道路で多発していることから、生活道路の安全運転指導に力を入れてください。とくに次の点を重点的に指導しましょう。

- ・一時停止と安全確認の徹底
見通しの悪い交差点での出合頭事故を防ぐために、一時停止と安全確認を必ず行うように指導する。

・通行禁止道路の設定

事故多発場所がある危険な生活道路を通行禁止にして、禁止ルートを示した地図を配り周知徹底する。

・生活道路のパトロール

目的の地への抜け道として、生活道路を走行している運転者がいないかパトロールする。

対自転車事故の事例と 事故防止の心得を周知する

自転車事故防止策として、社内イントラネットを活用した注意喚起も効果的です。

たとえば、事故事例として夜間、無灯火で走行していた自転車と衝突したケースを挙げ、薄暮・夜間時はスピードを抑えて走行し、上向きライトを積極的に活用することなどの事故防止策を共に記載します。

こういった交通安全情報を定期的に配信し、社員の安全意識を高めましょう。